

特集

スピリチュアリティ

宗教や信仰の領域への心理学からの発言は、長らく停滞していましたが、21世紀に入りにはわかに活況を帯びています。スピリチュアリティという言葉が誤解を含みつつ流布され、一つの社会現象にもなりつつある現在、心理学の立場から明確な提言がなされる必要があると思います。長らく日本宗教学会をリードし、スピリチュアリティに関わる数多くの著作を上梓されている島藺進先生に心理学へのエールもこめて、研究史の概観をまとめていただきました。スピリチュアリティ研究に、欧米のものをそのまま持ち込むわけにはいきません。多義的で、文化歴史的要因が大きくかかわる概念です。研究方法もまだ探索の途上にあります。実証研究の可能性を松島公望先生、欧米の研究との比較から Takahashi Masami 先生、子どもの宗教性を発達的な観点から西脇良先生に書いていただきました。いずれもこの領域を切り開いていかれている方々です。一方でスピリチュアリティは、臨床や教育場面において厳しい現実的課題になっています。石川勇一先生には心理療法の最先端の話題を書いていただきました。

(森岡正芳)